

元気を失ったとき 4

ダビデ

2009/11/1

ダビデの犯した2つの重罪

- ▶ 忠実な家臣ウリヤの妻ベト・シェバと関係を持った
 - 王宮の屋上から水浴びをしているベト・シェバを見つけ、ウリヤの妻だと知りながら召し入れた
 - 子どもができたと分かると、ウリヤを呼び戻し、もみ消そうとしたが、ウリヤは自宅に帰らなかった
- ▶ ウリヤをわざと戦いの前線に送り、殺した
 - 「ウリヤを激しい戦いの最前線に出し、彼を残して退却し、戦死させよ」と将軍に書き送った

なぜダビデは罪を犯したのか

- ▶ 試練から解放され、神様に頼る気持ちが薄らいでいた
 - 長い間、サウル王に命を狙われ、逃げ回っていた
- ▶ 様々な仕事をやり遂げて高ぶっていた
 - 神の箱をエルサレムに運び上った
 - 周囲の国々をほぼ平定した
- ▶ 緊張感を失って心にスキができていた
 - 民と共に戦いに出なかった

嘆きと悔い改めの歌：詩篇51篇

▶ 自らの罪深さを悟り，苦しみ，もがく

- 「あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。」(5)
「わたしは咎のうちに産み落とされ」(7),4,5,6,9,11

▶ 罪の清めを求めて祈る

- 「わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。」(4)
- 「ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください／わたしが清くなるように。わたしを洗ってください／雪よりも白くなるように。」(9),3,11,12

救いと回復を求める歌

▶ 主による回復を求める

- 「喜び祝う声を聞かせてください／あなたによって砕かれたこの骨が喜び躍るように。」(10)
- 「神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。」(12),16,20

▶ 築かれる新しい関係

- 「しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られません。」(19)

罪のどん底でダビデが得たもの

▶ 神との親しい関係

- 誰も助けることのできない孤独の中で
- 「神よ」3, 「主よ」1, 「わたし」21, 「あなた」15

▶ 自分の弱さを知る

- 自分自身を立ち上がらせることすらできない

▶ 神への新たな信仰と期待

- 「御救いの喜びを再びわたしに味わわせ／自由の霊によって支えてください。」(14)

キリストの十字架による解決

- ▶ キリストの十字架による完全な罪の赦し
 - 「わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。」(コロ1:14)
- ▶ キリストの十字架による神との確かな関係
 - 「主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており...」(ローマ5:1)
- ▶ キリストによる再創造
 - 「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(2コリ5:17)